

番号	科	名称	天候	25年度観察数												観察月数	観察回数
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1	トビ	トビ														0	0
2	トビ	キツネ														0	0
3	コウ	コウ														0	0
4	ツグミ	ツグミ														0	0
5	ツグミ	ツグミ														0	0
6	ツグミ	ツグミ														0	0
7	ツグミ	ツグミ														0	0
8	ツグミ	ツグミ														0	0
9	ツグミ	ツグミ														0	0
10	ツグミ	ツグミ														0	0
11	ツグミ	ツグミ														0	0
12	ツグミ	ツグミ														0	0
13	ツグミ	ツグミ														0	0
14	ツグミ	ツグミ														0	0
15	ツグミ	ツグミ														0	0
16	ツグミ	ツグミ														0	0
17	ツグミ	ツグミ														0	0
18	ツグミ	ツグミ														0	0
19	ツグミ	ツグミ														0	0
20	ツグミ	ツグミ														0	0
21	ツグミ	ツグミ														0	0
22	ツグミ	ツグミ														0	0
23	ツグミ	ツグミ														0	0
24	ツグミ	ツグミ														0	0
25	ツグミ	ツグミ														0	0
26	ツグミ	ツグミ														0	0
27	ツグミ	ツグミ														0	0
28	ツグミ	ツグミ														0	0
29	ツグミ	ツグミ														0	0
30	ツグミ	ツグミ														0	0
31	ツグミ	ツグミ														0	0
32	ツグミ	ツグミ														0	0
33	ツグミ	ツグミ														0	0
34	ツグミ	ツグミ														0	0
35	ツグミ	ツグミ														0	0
36	ツグミ	ツグミ														0	0
37	ツグミ	ツグミ														0	0
38	ツグミ	ツグミ														0	0
39	ツグミ	ツグミ														0	0
40	ツグミ	ツグミ														0	0
41	ツグミ	ツグミ														0	0
42	ツグミ	ツグミ														0	0
43	ツグミ	ツグミ														0	0
44	ツグミ	ツグミ														0	0
45	ツグミ	ツグミ														0	0
46	ツグミ	ツグミ														0	0
観察種数	月 / 年		10	9	12	8	9	8	10	9	15	12	14	0	23		

月	25年度コメント
4	木々は新緑の葉を察せ始め、鳥の観察がしにくい季節になってきた。サクラの花の蜜を吸うヒヨドリが見られた。ウグイスの囀りがあちこちで聞こえた。アオゲラのドラミング、鳴声が聞こえたが、姿を確認することはできなかった。コゲラの巣から、コゲラが出てきたのを観察した。来月には、ヒナに餌を運ぶ姿が見られないかと思った。ハシボソガラスも巣材を運ぶ姿が見られた。子育ての季節のようす。
5	ガビチョウの音が響き渡り、占領されたかと思われたがウグイスが良くさすり、谷渡りと呼ばれる鳴き方をすることもあった。ムクドリの中中海茶色の幼鳥が混じっていた。エナガが10羽ほど若葉の中を連れ回って飛び回っていた。今年生まれた幼鳥が混じっていたようだ。コゲラは既に巣立ったのか姿は見当たらなかった。シジュウカラの雄が青虫を啜っていた。枝にたたまっていた。弱らせ
6	梅雨の中休みで猛暑の中、樹々の葉も青々とした。ウグイスの囀りが涼気に聞こえ、シジュウカラやメジロは高い梢を鳴きながら行き来していた。高い樹々の木陰となる低木ではコゲラなどが見られた。また、赤い口が特徴のハシボソガラスの幼鳥の他、飛び方が未だ幼いヒヨドリの親子連れと思われ一団も見られ、巣立ちが着実に進んでいる様子が見られた。
7	今日は猛暑日予想されており、暑さのためか鳥影は少なかった。いつもは賑いらく聞こえるヒヨドリの鳴声も、殆ど聞こえなかった。涼しい山間部に移動したのかも知れない。飛んでいる鳥は少なく、ハシボソガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリが、まれに飛ぶ姿が見られた。そんな中、ガビチョウの大きな音が数か所聞こえ、それに対抗するようにウグイスも、数か所で囀っていた。
8	猛暑が一服、全国各地で数日間雨模様の日が続いたが、本日は曇って湿度が高い。全体的に鳥影は少ない。ハシボソガラス、ハシボソガラスの集団が目立った。一方、エナガ、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群と思われる一群が一時、高い梢を鳴きながら行き来していた。また、ハシボソガラスの一群の中に、口の中が未だやや赤い、巣立って間もないと思われる一羽の姿が見られた。
9	厳しすぎる残暑にも木陰で声を潜めているのか、カラス類の他の姿を確認するのが難しかった。隣接している建物の新しい白い囲みの中にヤマボウシの赤い姿が見え、こちら側の鳥舎からそちら側へと移動するコゲラを先頭にした混群に出会いました。シジュウカラの幼鳥も混じって、懸命に追っていました。車や人が通るとこちら側に戻るを繰り返していました。
10	7月～9月の夏季は非常に少なかったヒヨドリが戻って来て、鳴声が賑いらく聞こえた。武蔵台公園では観察数が非常に少ないヤマザクラが4羽も見られた。コゲラ、シジュウカラ、メジロ、ヤマザクラの混群が見られるようになった。ヤマザクラの幹に、アオゲラによって掘られた穴を、小鳥が再利用している形跡が見られた。今後、継続して観察したい。
11	一部で紅葉が進む秋晴れの中、シジュウカラ数羽とメジロ数羽が単体あるいは混群で梢から梢へ飛び交う姿も見られた。枯れた木の高い梢ではコゲラが忙しく群を採る様子が見られ、笹やぶではウグイスの地鳴きも聞こえた。また、秋を象徴するモスの高鳴きも確認できたが、府中市内で既に確認されて始めている冬鳥の姿は今回はなかった。なお、ヤマザクラの幹にアオゲラによって掘られた穴は、今回は特段の変化はなかった。
12	木々の葉が大分落ちて、小鳥が見やすい季節になってきた。ツグミ、シメ、シロハラなどの冬鳥も漸く観察できるようになったが、まだ、木の上の方に止まっている。ツグミ、シロハラが地上に降りて採餌するのはもう少し後になってからか、コゲラ、シジュウカラ、エナガの混群がみられた。メジロはヒヨドリジョウの赤い実を喰んでいた。ウグイスの地鳴きも目立ったが、ガビチョウも数か所へ飛んできた。トウネズミモチが食べごろになったのか、ヒヨドリが多数出入りしていた。その上空の梢にツグミの姿があり、様子伺うように止まって、待っているように見えた。ウグイスの地鳴きがあちこちで聞こえた。メジロ、シジュウカラがイヌシデの実にぶら下がったり、逆さまになって、囀っていた。ヤマザクラ、ジョウビタキの姿も確認されたが、少なかった。
1	一部の樹木には木の芽が膨らんできている様子が見られる中、木の実にはほぼ残っており、シジュウカラが落ちた実を採るように地面と低木の枝と行き来していた。冬鳥ではシロハラやツグミが地上で採餌していたほか、シメ、ジョウビタキも観察できた。夏には、チョウゲンボウが上空を飛行する姿が見られた。また、猛禽類のものと思われるペリット、並びに捕食されたと思われるシロハラ羽の残骸が確認された。
2	
3	

注1:表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数  
注2:名称欄記号は、2023年度東京都レッドデータ、北多摩のカテゴリー表示。

外来種

観察月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ツグミ	16	10	4	12	7	31						
ガビチョウ	3	4	3	3	2	2	3	1				
ツグミ												
ツグミ												

レッドリスト表示について  
名称欄に東京都レッドリストのカテゴリー表示を行った。カテゴリー表示の条件を以下に示す。  
2023年版 東京都レッドリスト

カテゴリー	名称	表示	基本概念
絶滅危惧 A類	CR	こ(近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの)	
絶滅危惧 B類	EN	A類ほどではないが、こ(近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの)	
絶滅危惧 類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの	
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧 類」としての上位ランクに移行する要素を有するもの	
ランク外		前回2010年版に掲載されていた今回の改定によりレッドリストから外れた種	
非分布		主要な生息地でないという理由から対象外とされた種	